

いのちのたび

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。今年の干支は辰ですね！！開催中の冬の特別展「博物館のお正月2024～辰～」では、マジュンガサウルスをはじめ、龍や辰をモチーフにしたものや縁起が良いとされる動物や美術工芸品のほか、お正月に関する様々な資料を展示しています。



現在開催中の特別展「博物館のお正月2024～辰～」です。



みなさまのお越しをお待ちしております！

先生、ちょっと聞いて！

出前授業

「土地のつくりと変化」

いのちのたび博物館では、小学校6年生の理科「土地のつくりと変化」の学習支援を実施しています。(詳細は3月に案内を学校に送信しますのでご確認ください。)

- 申込期間：令和6年4月1日(月)～4月15日(月) 必着
- 決定方法：抽選 ※先着ではありません。
- 申込方法：3月に送信する専用申込書に必要事項を記入の上、博物館へ FAX (661-7503) にて送信してください。



川の模型 (ジオラマ)



はぎとり地層



化石



ミュージアムのタネ



花の咲く季節は生きものしだい？

花は季節の変化を感じさせてくれます。

私の場合、エゴノキの花には春の深まりを、ネムノキの花には夏の訪れを感じています。実は、春から秋に花を咲かせる植物はとても多いのですが、冬はヤブツバキなどのわずかな植物しか花を咲かせません。これはなぜでしょう？

さて、当たり前なのですが、植物が花を咲かせるのはタネをつくるためです。多くの場合、タネができるには、雄しべでつくられる花粉が雌しべの柱頭にたどりつく必要があります。すなわち、タネができるかどうかは、花粉をうまく柱頭に届けることができるかどうかにかかっているのです。



エゴノキとハチの仲間

スギやアカマツは風に花粉を運んでもらっていますが、それはまさに風まかせ！これに対し、多くの植物が、確実に花粉を運んでもらうために昆虫を利用してしています。そのような植物は、昆虫が好む色や形をした花びらをつけたり、蜜を準備したりすることで、昆虫を誘っています。そして、たくさんの昆虫が活発に動いている季節、すなわち春～秋に花をさかせるほうがよいというわけです。



ネムノキとアオスジアゲハ

それでは、冬に深紅の美しい花を咲かせるヤブツバキは、だれに花粉を運んでもらっているのでしょうか。その答えは鳥です。メジロという鳥がヤブツバキの蜜を吸いにやってきますが、その際、花粉を運ばされているのです。冬なので花粉を運んでくれる生きものはわずかですが、他に花を咲かせる植物も少ないため確実にメジロを利用してきているのだと考えられています。このように、花を咲かせる時期は、花粉を運んでくれる生きものとも関係しているのです。



ヤブツバキの花

では、なぜ春～秋に虫は多いのでしょうか？ みなさんで考えてみてください。

(自然史課学芸員 真鍋 徹)